



## シンポジウム「京都御苑の魅力 ～その歴史と自然～」開催！

平成 25 年 8 月 25 日（日）に京都平安ホテルにおいて、都草主催による標記シンポジウムが開催されました。これは平成 20 年 12 月に行われた、環境省京都御苑管理事務所主催の「京都御苑歴史散策の集い」に協力して以来、都草が目指していた京都御苑のボランティアガイド実現へ向けての第一歩となるものです。

このシンポジウムは上京区役所（豊田博一区長）との共催で、環境省・国民公園協会・京都府・京都市・京都商工会議所・京都新聞社・古典の日推進委員会・明日の京都文化遺産プラットフォームなど多方面からのご協力、ご後援をいただき、社会的にも大きな関心が寄せられました。

隴谷壽先生には『平安時代の京都御苑界限』、高木博志先生には『明治維新と京都御苑』と、それぞれご専門の分野のご講演をお願いしました。



隴谷壽 先生



高木博志先生



井上満郎・市田ひろみ・中西甚五郎 各先生



鼎談（市田ひろみ、中西甚五郎、井上満郎 各先生）は、井上先生が座長役で和やかな雰囲気が進められました。はじめに中西先生が御苑の美しい四季や野鳥などを画像で紹介され、つづいて市田先生が伝統文化継承の大切さにふれながら、御苑との関わりをユーモアをまじえてお話をされました。途中、井上先生のご指名で門川市長と立命館大学の土岐先生も発言されるなど、270 人程の参加者で埋まった会場は大いに盛り上がりました。

9 月から毎週日曜日に「京都御苑歴史散策ツアー」が行われています。これは今年度の都草の事業計画の一つとして、美化活動・歴史探訪会・研究発表会・京都検定対策委員会・文化交流会などとともに、都草の基本活動となるものです。京都御苑にかかわる活動についてはまだ試行錯誤の段階ですが、都草として責任と誇りをもって進めていきたいと思っています。シンポジウムが盛大かつ有意義に行われたことをご報告するとともに、ご協力いただいた京都御苑歴史研究会、都草会員、役員の皆様に厚くお礼申し上げます。（理事長 坂本孝志）

## ◆◇ 会員紹介 ◇◇



## 「私の京都の道」

2001年、京都の道を走破すべく、自転車での散歩・ポタリングを始めました。そして2009年、「1200年続いている京都の歴史・文化」の勉強を「道」を切り口にやってみようと思い、はや5年目になります。その間、都草の研究発表会でも「道」をテーマに3度発表をしました。私は現地を訪ね、多くの方の「ご縁」をいただき、その方々の思い出や記憶からその地域の歴史を知り、積み重ねるというやり方です。今も「京都の小さな道」を勉強しています。ある時、各地に存在する番号路地を探していて、「おじさん、違う番号路地を見つけたよ。」と、「ご縁」をいただいた方に大きな声で呼びとめられました。最初は誰のことかと思いましたが、まさに私のことでした。本人にまだ「おじさん」意識がありませんので、一瞬躊躇したわけです。その方は買い物に行くのに、家の近くをキョロキョロと歩いてくれていたようです。「ご縁」に感謝しながら「第拾五番露地」の写真を撮りました。また、「松月小路」の名の由来である、松と月のお飾りのついた剣鉾の写真を撮りに行きましたが、天気予報が雨であったために、既に解体されて収納されていました。ガッカリしていたら、「ご縁」をいただいた方から以前に撮った写真をいただきました。この写真は12月の研究発表会で見ていただきます。このように、都草をはじめ多くの「ご縁」に助けられながら歩いてきました。実働を80歳までと考えて、残り15年も愚直にコツコツと前進していきたいと思っています。(会員 菊井俊彦)

## ◆◇ 会員紹介 ◇◇

## 歴史探訪を楽しみましょう



この度、歴史探訪西部のお手伝いをするようになりました。部長は、人間関係を大事にされ静かな雰囲気です。引張ってこられた高橋明俊さんから、切れ者の俊藤靖さんに引き継がれ、新たな展開が期待されます。都草の原点の一つでもある歴史探訪会には常に40~50人の会員の方が参加されています。皆さんも一緒に歴史探訪会の運営に参画されて、知っていることも知らないことも研究する機会を持ちませんか。

歴史探訪西部では、訪問先の選定から資料集め、下見、そして実施までの間に何度かの会議が行われます。この会議は実に楽しいもので、会話の中から方向性が見出されていきます。「風が吹けば~桶屋が儲かる」のように、訪問先の地域性や歴史性を原点として、人物や寺社の情報が幅広くそして深く話が尽きません。時には「何処まで話が進むのか」と、ある種「都草」ならではの展開となります。実は私は、この中身のある展開を聴くために会議に参加しているようなものです。偏りがちな認識にあらたな事実が加わることとなり大きな刺激を受けています。勿論、時間的な制約で歴史探訪会では説明されない話題もあり、その中には史実に基づく核心が残されている事もあります。部会の皆さんは本当に京都が好きで、「歴史探訪」で鉦脈を掘り当て、更に奥深く歴史の新たな鉦脈を探し求める様な議論がされています。私も一員として、お酒の話だけでなく「歴史探訪」に話題が提供できるように楽しみながら活動をしていきたいと思っています。

(会員 久世幸男)